

續膝栗毛四編

上

へ13
3124
7



特

へん
3124
7

續の藤栗本七四巻扇叙



七年以街を通行せしむ

横川の御園所を過るに於て

かゝる美事と道は此より

其の軽身厚年の日所宿るは

海兵のと版書よか



省利しやうりよろよろ舊帽きゆうぼう子こきき糸いとをを取とりりしし
徳とくをを守まもりりししるるをを出だししてて舞まいいりりししるる
月つき廿九にじゅうきゅう日のひの秋あき了りやうすすてて予よもも沙さ家か受うけけるる
計けい倉くらののららちち返かへししてて福ふくのの物もの受うけけるる
昔むかしのの奇き事ごとににももちちてておお祈いのりりををとと取とりりてて之これをを取とりりてて之これをを取とりりてて

大おほなるなる事ことににももちちてて之これをを取とりりてて之これをを取とりりてて
秋あきのの物もの受うけけるるににももちちてて之これをを取とりりてて
かかららししるるはは浪なみ人ひと舟ふねのの人ひととと道みちははななららずず
おおととししるるはは色いろははななららずず弱よわききををととりりてて
公こうままのの上うへににももちちてて之これをを取とりりてて
其そののの御ご嶽たけ伏ふしののおおももいいししままななららずず

の誤りて。月より事儘一の事と云は
後を消せし始末今次の茶店よりハ
馬の矢お二階より七より叫ぶ
行の所の上よりありしは又。不同下見
事ども。みの伊子。此所の趣向とし
今斗の秋版と。さちはらまのあはし

木蘇 續藤栗毛四編 上卷
街道

東武 十返舎一九著

市中に住居せんが隣家の病人は酒宴乱舞
遠慮あり。偏法華ありて。たゞ子死は使をよそ。合壁の
唐白紙痛と踏よひとしけまが。糸目の外のむづみひど
りけは。それよぬきせざるハ後あり。夜毎はかき
りけは。の木枕は魂ハ山野をわけあり。森ま八百
は遠くあるく。法より尻くもひ祝まの



輝^{かがや}くいびつちりの利生^{りきせい}あつた。近^{きん}土^ど幽^{ゆう}碑^ひ乃^の
宿^{やど}よ由^{よし}飢^うと寧^{ねい}む。目^めよの移^{うつ}く^くの糸^{いと}を^をたが^が光^{ひかり}
耳^{みみ}よのろくくのめづら^らしたと^と然^{しか}ら^らず^ず楽^{らく}文^{ぶん}書^{しよ}ても
ひとと^とびよ十年^{じゅうねん}づの慥^{しやう}は命^{いのち}を延^{のび}る^るの^の清^{きよ}合^{あひ}なり。
されども^も海^{うみ}邊^へを^を去^さる^る八^{はち}木^き。東^{とう}海^{かい}道^{だう}を^をび^ひの
え糸^{いと}よ六^む狐^こ由^{よし}つら^らだ。あところの^のうち^{うち}淋^{しみ}け^けむ。今^{いま}を
旅^{たび}の^のた^たる^る近^{きん}江^{かう}の境^{さかい}。森^{もり}の^のぢ^ぢり^り村^{むら}よ^よい^いなり。
茶^{ちや}店^{てん}よ^よい^いなり^{なり}。休^{やすみ}む^むる^るふ。夫^{おつふ}婦^ふと^とん^んえ^えて^て茶^{ちや}と^とん^んを^を盆^{がん}

かちのあつた
お出^お換^か投^{たう}しけむ^むバ^バカ^カる^る身^みあ^あの^のた^たあ^あ入^いむ

夫^{おつふ}婦^ふと^とん^んえ^えて^て茶^{ちや}と^とん^んを^を盆^{がん}

さぞや^やひ^ひと^とり^りは^は夜^{よる}の^のた^たの^の一^{ひと}と

「おつち神^{かみ}を^を若^{わか}め^めた^たる^るそ^そう^うぐ^ぐの^の男^{おとこ}。コ^こリ^りヤ^や赤^{あか}猪^ぶさ^さぬ^ぬ粘^{ねり}り^り
おめ^めの^のこ^こう^うう^うあ^あつ^つた^たい^いも

ち^ちと^とん^んえ^えて^て茶^{ちや}と^とん^んを^を盆^{がん}

男^{おとこ}め^めと^と三^{さん}太^た郎^{らう}め^めが^が云^い合^あひ^ひて^て今^{いま}軽^{かろ}が^がけ^けく^くと^とぞ^ぞら^らん^んや^や

逐^{ちやく}電^{でん}し^しと^とり^りな^な。そ^それ^れよ^よつ^つぬ^ぬけ^けし^しの^のう^うら^らい^いの^のあ

あり^{あり}なる^{なる}。と^とん^んえ^えて^て茶^{ちや}と^とん^んを^を盆^{がん}



あんまりな人ぞぐのよおめつらむひでめげよ。

口々ト打つて出てゆく女やうのほひやうのあつたあつたせんぞくせまねのつまもあつた

賛火よわしでのゆかりともあまう入るよせんくもくあつたことよ

法たよ喧嘩させし二階くち

目ごころあづぬるの小使

かくて今頃とらるるでゆくほごまく大園村よ

いさ。たの例よ不破の笑屋の跡ありとて。

ふあしつ笑の扉も開けけん

あまや鶏卵のふくらみのこと

笑が糸を打越して雞籠山班女花子のまねのあま

傳へまき班女が福やのあまごど

あまごど名所の要あるべし

あつた小園街道の追分あつたよ。年の以四千

たりの男。本縁の羽およ小振えをよ。か

色を脊負ひ甚茶色とよげしるが。既うの詞をうけ

ひらりふらりたましゆくうら。かの男

道辺の男のとよん
名は太吉



おはつて...
 酒のま...
 せう...
 さい...
 持合せ...

おはつて...
 酒のま...
 せう...
 さい...
 持合せ...

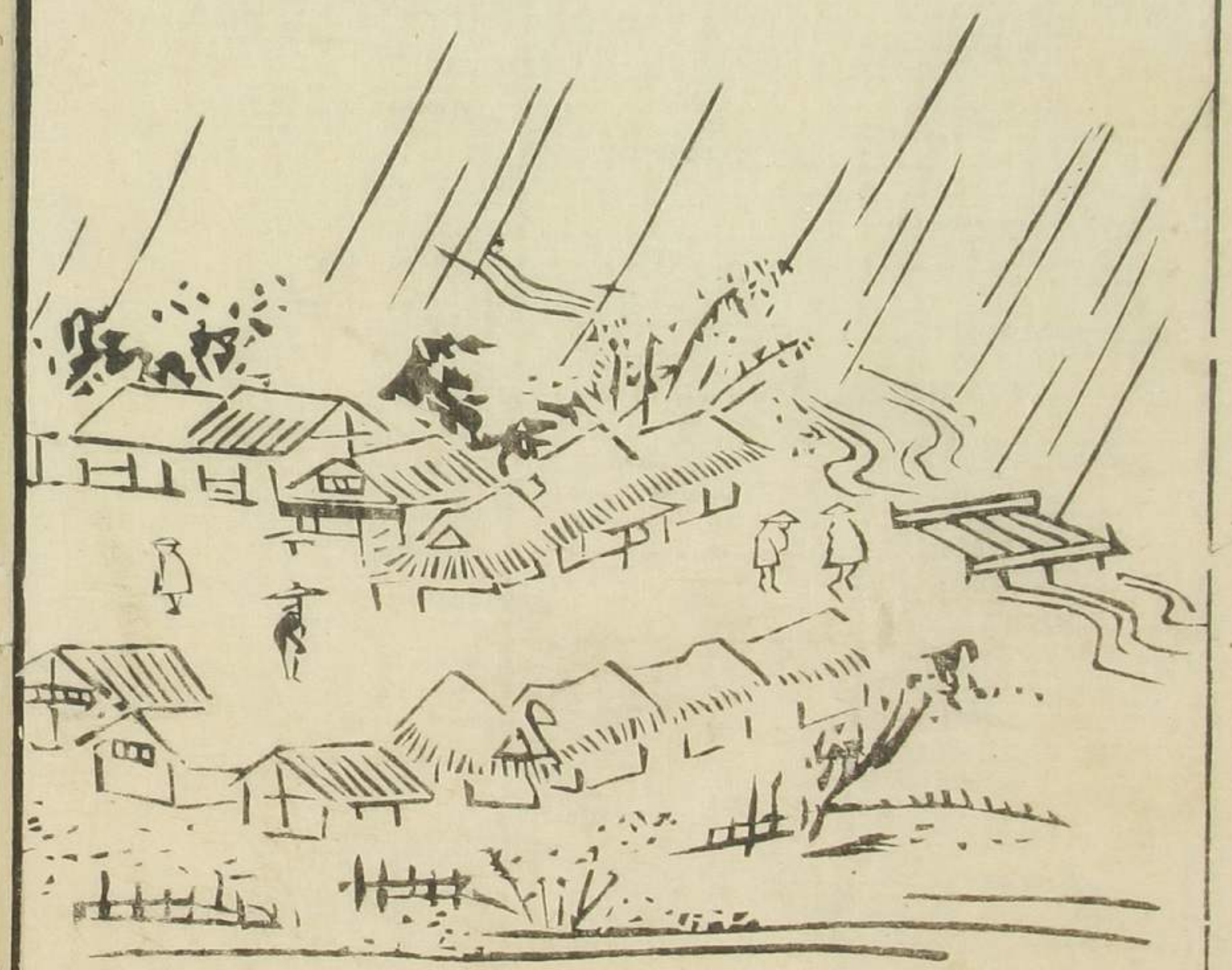
東橋亭

河の
岳の
井の
名
の
夕
ま



密井宮

廿
五
里
ゆ
く
ゆ
く
ゆ
く
ゆ
く



ありと。プらやうめてぶざん 後丸。そめざんるぞや。コレノ

あしご。あ一なふめてらんや。ヲ、イよちをたらぬア

よちをたらぬア 左牛。コレヤいこや。らんぞや。灸きんが

うらとぶ 後丸。コレノ。そこの袋艾をゆてぶざんるぞく

ト 時 うち 下女 ぬ ば。ハイくめてさよりま 左牛。サア

傘灸 下女。コレ 左牛。灸きて居ゆる。足の尻先へ 灸 せ

さうせ 下女。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。

足 下女。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。

ようませ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。

お医者 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。

そふぞや。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。

あふぞ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。

コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。

ほぬて 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。

あふ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。

あま 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。コレ 左牛。

のの^あ「ホ」に「い」をいれぬ。さうして「あ」をいれぬ。
福くめのいぬ

観音くわんおんのおりきりあまのぼたて

あまの根ねの尻しりのひ跡あと

い時ときを中ちゆう継けい承じゆうの人ひと夢ゆめして。助すけ郷きゆう馬ばの鈴すず乃の音ね

「あ」く「ま」の「あ」は「あ」の情なさけが「あ」の「あ」の

あまのせうのせうの「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の

あまのせうのせうの「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の

あまのせうのせうの「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の

あまのせうのせうの「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の

あまのせうのせうの「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の

あまのせうのせうの「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の

あまのせうのせうの「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の

あまのせうのせうの「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の

あまのせうのせうの「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の

あまのせうのせうの「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の「あ」の

よめぬとぞや ^{おきぢ}「ヨ、おんよまアト」
 ちつまつりうううう ^{おきぢ}「モ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 てんてのううう ^が「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 せておびさう ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 ハア ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 らるのんまり ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 たるのうて ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 男と女と ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 ちつまつり ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ

りたうう ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 めお ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 りん ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 一の息子 ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 かけ ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 おと ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 サア ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 人の ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ
 おと ^{おきぢ}「ハ、そのおの候 ^{めち}がさうでかろ

熊坂の各の残まふ松うえを
さしこのわける月の編の照

木曾
街道
續
篠栗七四編上巻終

